

にぎわい掲示板

にぎわい交流館 LINE 公式アカウントを
開設しました。ランチ・マーケット・ギャラリー・
一般向けイベント情報をお届けします

友だち登録してね！



ほっと一息つきませんか

おいしいコーヒー・紅茶はいかがですか。1杯 200円。
不定期ですが、喫茶営業中のときは看板が出ています。
にぎわいドリンク(ペットボトル)は1本 100円で販売中。

サボテン開花カウント実施中！

昨年は一度に10輪開花という快挙を
成し遂げたにぎわいのサボテン。
今年は昨年に負けじと次々に咲いてい
ます。結果は12月のWebサイトで
発表するので楽しみに!!

昨年、生死を彷徨った
ピエールも完全復活！
交流館には花と笑顔が
いっぱい。お近くの際
にお立ち寄りください。



ワンディシェフ・マーケット・ギャラリー

火曜日 オールフォーユー

旬の食材を使った家庭的でボリュームなランチ



●ランチ 700円

第1 木曜日 花菜豆

伝統和食の温かさや中医薬膳の奥深さをお膳で



●ランチ 850円 ●飲み物 200円～

第2 木曜日 日進 LOVE ラボ 星のたね

みんなの「あったらいいな」をカタチにしてい



●ランチ 750円 ●飲み物 200円

土曜日 名古屋学芸大学 Canteen

管理栄養学部の学生が作るランチ



●ランチ 500円 ●飲み物 200円

第2 日曜日 日進絆子ども食堂

地域の子どもたちと大人たちの居場所



●ランチ 高校生以下無料・大人 500円
●飲み物 200円

手作りの品・こだわりの逸品がお買い得！ マーケット 10:00～16:00

(時間は出店者により異なる場合があります)

第1・2・4・5火 スマイルハウス
第3水 薔薇しかない花屋 Neo
第2木 手作りサークル PiPpi
日進 LOVE ラボ
月・金 ななサポ
(お弁当・手作り品)

市民のみなさんの力作を見に来て！

ギャラリー 8:30～20:00

(最終日は15:00まで)

10/2(月)～10/15(日)
and にこり日進
「にこりすまいるのにじろ展」
10/16(月)～10/30(月)
ふれあいえてがみ会
「ふれあい絵手紙作品展」
11/2(木)～11/15(水)
創作アップリケやわらぎ会「作品展」

ワンディシェフ募集中！

あなたもシェフになってみませんか？

日進市にぎわい交流館

開館時間 サロン 8:30～20:00 / 会議室 9:00～21:30
休館日 年末年始(12月28日～1月4日)
〒470-0122 愛知県日進市蟹甲町中島 277-1



電話 0561-75-6650
ファクス 0561-73-5810
電子メール nigiwai@me.ccnw.ne.jp
ウェブサイト https://shimin-kouryu.net



わいわい集える市民活動支援センター 日進市にぎわい交流館の情報マガジン

にぎわい Vol. 26 2023 年 NEWS



人のつながりは宝 体験でつちかう力

【特集】市民活動団体インタビュー

山口朝子さん

・NPO 法人 スマイルハウス

Contents

- 【特集】市民活動団体インタビュー
- にぎわい掲示板
- ワンディシェフ・マーケット・ギャラリー

日進市岩崎町の住宅街の一角に建つ、古民家「つどいの場 なごみ館」をご存知だろうか。

スマイルハウスはここを拠点に、日進市在住者を中心に、障害者が社会参加するための支援や高齢者の生き甲斐の場づくりの活動を続けている。

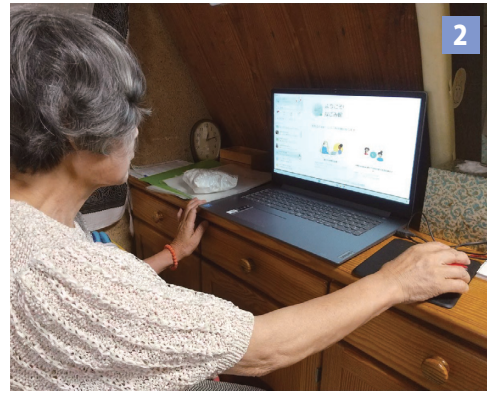
「につしんぷらっとホーム岩崎」も開催され、洋裁や編み物教室、麻雀などの趣味を楽しむ地域の人の交流の場になっている。

ここで精力的に活動する山口朝子さん。気さくな人柄で多くの人に「朝子さん」と親しまれている。児童心理カウンセラーとして子どもたちに寄り添い、日進市の高齢者福祉・介護保険事業運営協議会委員、高齢者ゆめプラン策定委員、生涯学習推進協議会委員、スポーツ振興基本計画策定委員、青少年問題協議会委員なども務めてきた、朝子さんにお話をうかがった。





スマイルハウスのさまざまな活動



① 毎週水曜日はつつしん体操とストレッチの日。②他団体との連携で始まったバリ島の学生とオンライン交流。③ミシンを使って小物作りや和洋リメイク。④障害者も一緒にランチを仕込み中。⑤みんなでランチ。この日のメニューはざるうどんと天ぷら。

自閉症児との出会い

夫の都合で日進市に移住した翌年の1978年、子どもが好きなこともあったこともあり、知人の勧めで学習塾を開くことになった。

下の子はまだ幼稚園に通っていたが、仕事をするにあたって子育ての不安はなかったし、夫も背中を押してくれた。「日頃からいろんなことを子どもたちにやらせて、自分のことは一人でできるようにしていたので」

開塾してすぐのこと、自閉症の3歳児を受け入れることになった。自閉症のことは何もわからないので、自閉症親の会に参加したり、障害児を受け入れている学習塾を見学に行ったり、心理カウンセリングの講座にも通って、自閉症について学んだ。

「子どもは接し方で変わる」講座での学びと幼稚園での経験が、朝子さんの活動の指針になっている。

えっ40年前にインクルーシブ教育!?

子どもが通っていた幼稚園で、園から保護者に重度の自閉症の子どもを受け入れて良いかと相談があったそうだ。「子どもの教育には必要なこと。ぜひ受け入れてほしい」反対する保護者は一人もいなかった。

「先生はあの子たちに手がかかるから、私たちがやるよ」と、子どもたちは自分のできることを考えて率先してやる、自然と障害のある子もいない子も一緒に小さな社会ができていた。今でいうインクルーシブ教育じゃないか。インクルーシブ教育とは、障害のある子どもたちだけを集めて支援学級で勉強させるのではなく、皆一緒になって小さな社会層を持つことだ。40年前に自然な形でそれができていたことに驚かされた。

体験の場を作るため

自閉症の勉強を始めると、知的障害児親の会の若い人たちから多くの困りごとや相談を受けるようになり、彼らと交流する中で、障害者の社会参加には体験が必要だと実感した。

1999年、日進市折戸町に、障害者の体験の場として、手作り品・リサイクル品のお店「スマイルハウス」をオープンした。

「ここには調理場もミシンもある。だからご飯も作れるようになるし、みんなでご飯も食べられる。作ったものをお店で販売もできるから障害者の仕事にもなる。一般の人と交流もできるでしょう?何より人に慣れることが大事だから」

1995年、NPO法人格を取得すると、要望のあった他の障害者施設の子どもたちを受け入れ、体験学習のために、にぎわい交流館ワンデイシェフとにぎわいマーケットも始めた。

そして、障害者だけでなく、高齢者の生き甲斐の場もつくりたいと、高齢者の集いの場として日進市藤島町に「なごみ館」を開館した。

老人会と子ども会との連携を図りながら、野外・買い物学習や重度障害児・者への食事の提供など、必要だと思ったことはどんどんやった。

2016年、「なごみ館」を藤島町から岩崎町へ移転。それを機に、障害児の新規の受け入れをやめ、高齢者の生き甲斐の場づくりへと舵をきった。「障害児の育ちには数年かかるので、私の年齢を考えると新規に受け入れるのは難しい」と感じたからだ。

子どもたちの育ちが原動力に

とはいえ、活動の中で一番の喜びは、子どもたちの成長を感じる時だという。

野外学習に出かけたときのこと、「何でも買っていいよ」と一人500円のお小遣いを渡したそうだ。教えて手助けするのは簡単だが、「絶対に口は出さない、黙って見守る」がスマイルハウスの方針だ。

「どうしたと思う?子どもたちは注文する人たちの様子を観察して、500円払ってお釣りをもらった人と同じものを注文したの。そこで限られた範囲での買い方を学んだのよ」と嬉しそうに微笑んだ。

周りを見て、人のふりを見て、子どもたちは生活の術を身に付けていく。教えずとも社会の中で学んでいくのだ。

このとき、他の子どもたちには「〇〇くんのことを時間が経たなくても待っていてあげよう」と声掛けをした。待つという行為には、相手への思いやりと尊重がある。

「人は声かけ次第で変わる。人の育ちには体験が一番で、その機会を提供してあげることが大事。失敗してもいい。失敗するとそこでいろいろ考えるでしょう?体験することで何かに繋がっていくものだから」

スマイルハウスに通った子どもたちは、社会生活の術を身に付け、今ではみな社会人として働いている。

1+1を5にするために

環境保全や防災などの団体にも籍を置き、何かを始める度に勉強し、いろんな資格を持っている朝子さんだが、その姿勢は常に謙虚だ。

「親だから大人だから正しいとは限らない。自分が間違っているかもしれないから、わからないことや経験していないことはNOとは言わず、少し考えさせてと言うようにしている」

更にこう続ける。「この世に能力のない人は一人もいない。必ず持って生まれた能力があるものだから、その能力を生かせる場をもっとつくっていききたい。同じ目的を持つ人たちと協力できたら、人と人とのつながりで、1+1=2じゃなく3にもできるし、4にも5にもしていける」

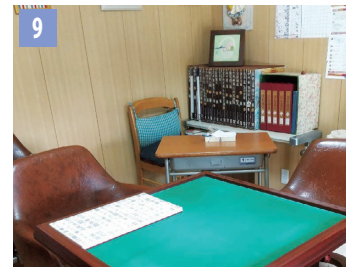
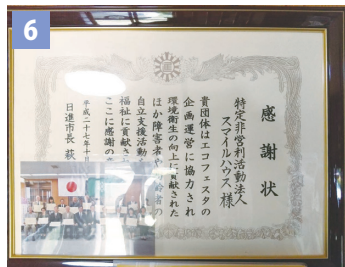
休むことなく走り続ける朝子さんは、これからどこに向かって走るのだろう。そう問いかけると「介護保険をなるべく使わない対策が必要だと思うし、子育てと人間教育、自分にホッとする何かを見つける場や高齢者の特技を活かす場づくり、生活支援と見守り…」と意欲にあふれる言葉が続々と出てくる。

「この活動はみんなの協力があってこそ。自分一人ではできないことだから人とのつながりに本当に感謝してる。これらの課題はいろんな方向からやっていけば解決していけると思う」

すごいですねと感心していると、「好きでやっていることだから。趣味のようなものなのかもしれない」と笑っている。

活動は生活の一部で、それを楽しんでいる朝子さんのように年を重ねていけたら素敵だと思う。

朝子さんの言葉は胸に響き、多くのことを考えるきっかけになった。かける言葉で人の人生は変わり、体験することで多くのことを学ぶ。体験の場は生涯の学びの場であり、人と人をつなぐ架け橋にもなる。そしてそれは人を、人生を豊かにしてくれる。(取材・文 石原)



⑥日進市から贈られた感謝状。⑦つつしんわいわいフェスティバル2023にも出展。⑧にぎわいマーケットの看板娘のはっちゃん(95歳)と一緒に。⑨むつみ館の午後は麻雀タイム⑩にぎわいマーケットには小物や草草履が並ぶ。⑪活動をサポートする夫の山口軌示さん。良きパートナー。おしどり夫婦と言われる二人。

NPO 法人 スマイルハウス
連絡先 090-2344-6507 (山口)

